



おぐら・しゅうへい  
1974年三重県尾鷲市生まれ。英知大文学部卒。派遣社員、衆院議員秘書などを経て07年足立区議選に当選。現在2期就労支援、地域活性化、貧困問題に取り組む。

小椋修平  
東京都足立区議  
案

議  
員  
提

総務省の就業構造基本調査（12年）によると、非正規雇用は約2043万人で全体の38・2%で過去最高の水準になっている。15歳以下のフリーターの若者が10年前と比較して約123万人増の約349万人（10年）、35歳までの年長フリーターが約91万人増の約189万人（同）に上っている。15歳以下24歳の非正規雇用は43%（11年）で失業率は8%など、若い世代を取り巻く雇用情勢は厳しさを増している。ニート（若者無業者）は約63万人（12年内閣府）、ひきこもりは約69万人（10年内閣府）

という状況です。

私自身、バブル崩壊後の就職氷河期で派遣社員を経験したことや、少子高齢化、現役世代の減少など、将来への危機感から若者就労支援を重点施策として取り組み、議会で次のような課題を取り上げてきました。

- ・中学・高校の職場体験や将来の進路を考えるキャリア教育の充実
- ・中卒・高卒進路未決定者、高校中退者の学校から切れ目のない就職・進学支援の実施
- ・失業者の就労支援策、相談窓口や支援制度の情報発信の強化
- ・ニート、ひきこもり、非正規雇用や働いた経験のない若者へのキャリアアップのための支援策
- ・行政の縦割り横割りを超えた各関係機関・部署との連携強化
- ・（若者就労に限りますが）就職だけでなく心の問題や借金、住まいなど

非正規雇用、ニート、ひきこもりの若者就労支援に取り組む

ど複数の問題を抱えている場合が多く、一カ所で全て相談できる総合相談窓口の設置

・企業経営者へのアプローチ、ワーク・ライフ・バランスの推進。

足立区では若者就労支援策についてさまざまな取り組みを進めています。先導的な事例を一つ挙げてみると「あだち仕事道場」（訓練就労サポーター制度）ではないかと思えます。この制度はアルバイトも経験したことがない、働きたいという意欲があっても不安や迷いでなかなか一歩が踏み出せないといった若者のための職場訓練で、最長6カ月間、職場でNPOスタッフが就いてサポートを受けながら仕事をし、働くことへの自信をつけて就職活動・アルバイトへのステップアップを目的としています。

いて、経験やスキルがないため仕事やアルバイトを探しても現実には厳しいことを知りました。そのギャップを埋める仕組みが必要だと実感し議会で質問して制度化されたという経緯があります。偶然ですが、あだち若者サポートステーションを委託運営しているNPO法人青少年自立援助センターからも同様の要望が出されていたようです。

長引く景気低迷の影響や非正規雇用の増加、大企業を中心にした新卒採用が優先される雇用慣行など課題が多く、若年層の就労支援は地方自治体だけでは限界があります。しかしながら、地道な取り組みで着実に成果を出して、縦割り横割りを超えて官民地域一体となり、これからの社会を担う若者を育てるといふ風土を築いていきたいと思えます。